

**これまでの経緯
及び
八幡代団地周辺の浸水対策について**

- ・ 令和元年東日本台風による洪水時
- ・ 近年（令和5年8月等）の集中豪雨時

令和8年5月26日
国土交通省千曲川河川事務所
千 曲 市

これまでの経緯

平和橋遊水地の概要、八幡代団地の浸水対策案

平和橋遊水地整備・八幡代団地浸水対応 これまでの経緯（地元説明会開催年月等）

- 平和橋遊水地の整備、八幡代団地の浸水への対応については、令和2年2月に初めて地元の皆様への説明会を開催し、遊水地の事業計画、及び八幡代団地の浸水対策案の検討を行ってまいりました。
- 令和6年度下半期から7年度上半期にかけて、事業期間の変更に関する検討を行いました。
- 令和7年度は、八幡代団地浸水対応について、市と連携し、浸水要因の詳細な分析と対応の方向性の検討を行ってまいりました。

（令和2～5年度）

令和2年	2月	26日	地元説明会（八幡区 遊水地計画）
令和2年	12月	22・24日	地元説明会（八幡地区 遊水地事業・緊プロ概要説明・平和橋計画地説明）
令和3年	3月	25日	地元説明会（八幡代団地 遊水地事業・緊プロ概要説明・イメージパース提示）
令和3年	11月	16・18日	地元説明会（地権者説明 施設説明・アンケート結果報告・用地買収方式）
令和4年	8月	30日	地元説明会（八幡代団地 浸水対策案の提示、測量・地質調査・幅杭測量告知）
令和4年	9月	6・8日	地元説明会（地権者説明 浸水対策案の提示、測量・地質調査・幅杭測量告知）
令和4年	11月	4日	合同現地調査（洪水時の浸水位を確認）
令和5年	2月	22日	地元説明会（地権者説明 設計概要説明、浸水対策案の説明、 用地の進め方の説明（現地調査・算定・調書確認・個別説明等）
令和5年	7月	7日	地元説明会（八幡代団地 浸水対策案説明）
令和6年	3月	27日	地元説明会（八幡代団地 浸水対策案詳細説明）



令和4年8月 地元説明会



令和6年3月 地元説明会

（令和6～7年度）

令和6年 6月 9日 現地説明（八幡代団地 浸水対策案現地確認・説明）

令和6年度下半期～令和7年度上半期 下記の検討を実施

・信濃川水系緊急治水対策プロジェクトの事業期間変更に関する検討

→ これまでの事業進捗状況を踏まえた、事業期間、事業完了時期について国・県・市が連携して検討を実施。

令和7年度上半期～下半期

・**代団地浸水への対応について、浸水要因の詳細な分析と対応の方向性の検討を市と連携して実施。**

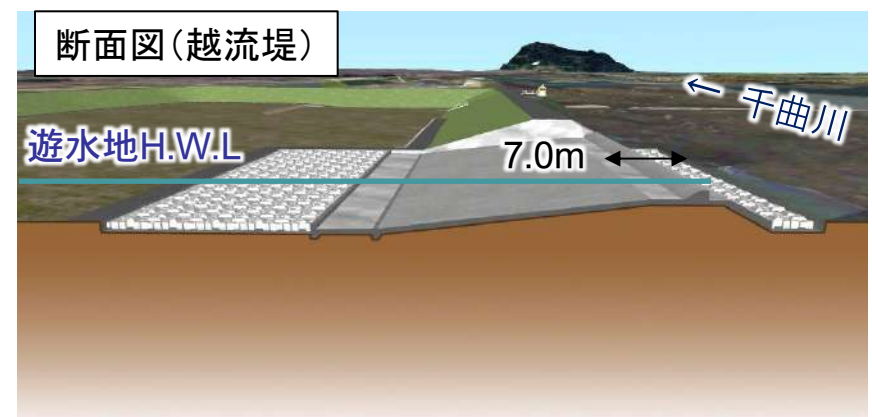
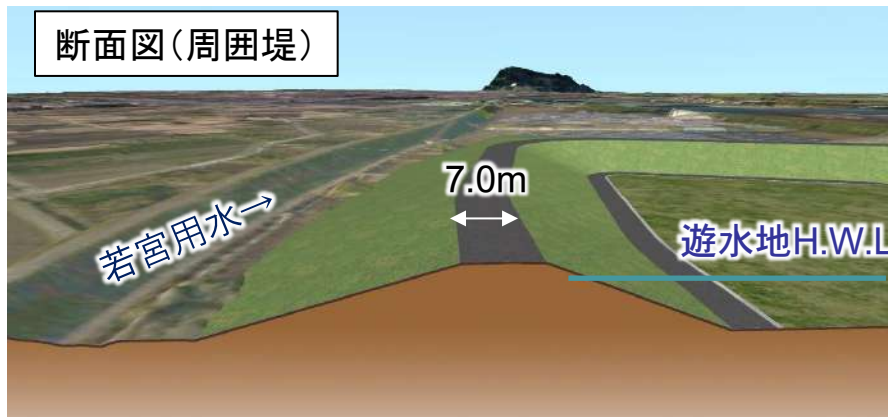
令和7年10月 2日 事業期間変更の公表（流域治水協議会）

令和7年12月 23日 関係市議・地元役員の皆様へご説明（事業期間の変更、今後の整備スケジュール等）

令和8年 3月25・27日 関係市議・地元役員の皆様へご説明 **2**（現時点までの検討状況・今後の予定等）

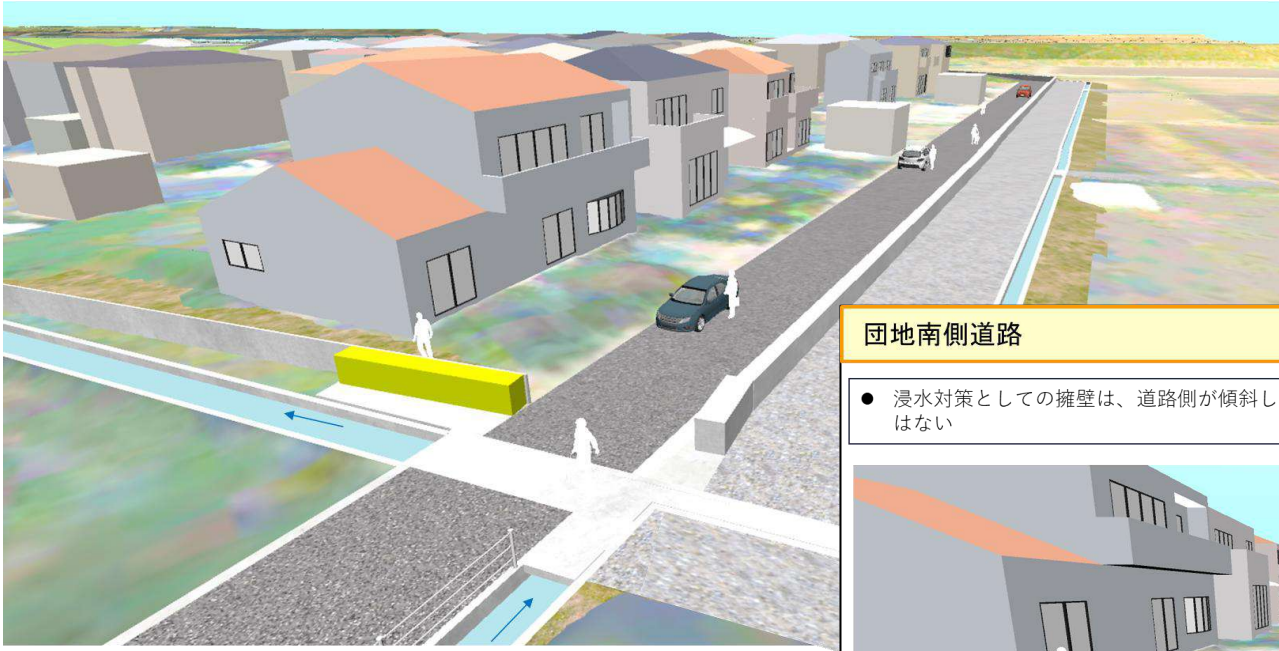
平和橋遊水地の整備 平和橋遊水地の概要

- 平和橋遊水地では、遊水地に貯留した洪水を排水するための排水樋門の整備を行い、囲繞堤（いぎょうてい）となる千曲川の堤防と周囲堤の整備により遊水地としての器を確保するとともに、堤防を部分的に切り下げ洪水を取り込むための越流堤の整備を行います。



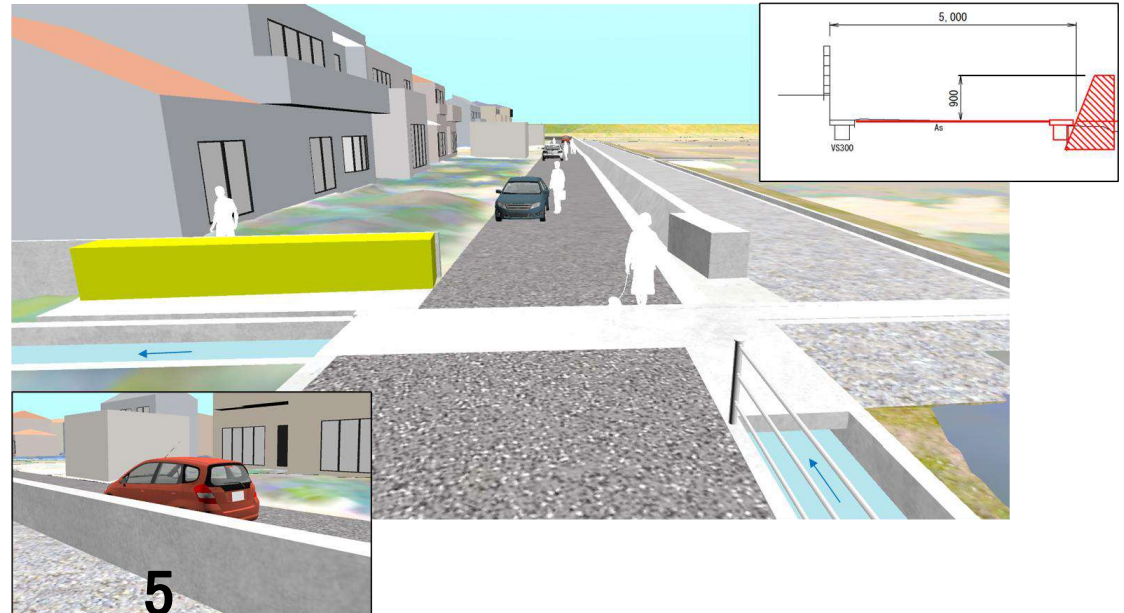
団地南側道路

- 南側道路は、道路排水のための水路を設置し、道路幅を5.0mとする
- 浸水対策で設置する擁壁の南側に、農道を設置し、その南側に若宮用水を付け替える
- 農道は、陸間の手前から進入できるようにする



団地南側道路

- 浸水対策としての擁壁は、道路側が傾斜し、高さは道路から約0.9mであるため、車の窓より低く、走行時の圧迫感はない



八幡代団地周辺の浸水対策について

～令和元年東日本台風による洪水時～

①令和元年10月洪水による浸水要因の分析

八幡代団地周辺の降雨状況

- 令和元年10月洪水時の八幡代団地周辺の降雨状況は、10/12・1時～23時に降雨が観測され、この間の時間最大雨量は10/12・15時に17mm/hを観測しました。
- 過去（分譲開始～現在まで）の降雨状況を確認したところ、令和元年10月降雨の日降雨量は平成14年と並んで八幡代団地分譲以降最大を記録しましたが、年最大時間雨量、年最大3時間雨量は、令和元年10月を上回る降雨が度々発生していました。

※八幡代団地の分譲開始時期 1期；H6（1994）年度、2期；H9（1997）年度

図1 降雨量の時刻変化（八王子雨量観測所）

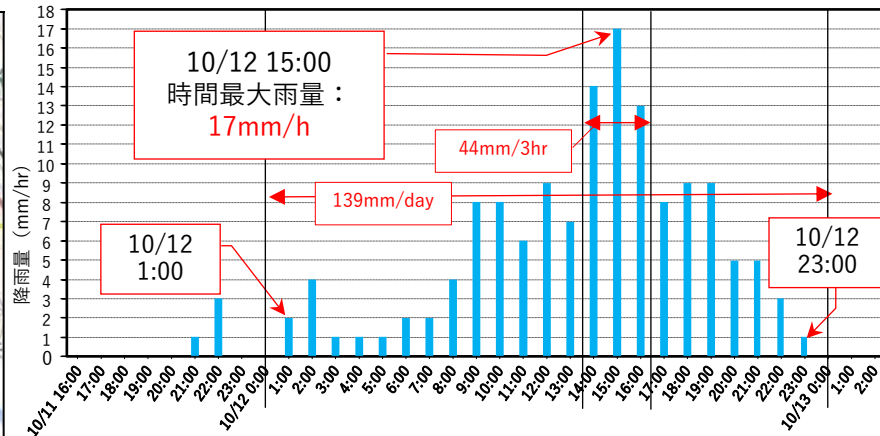


図3 団地建設以降の年最大時間降水量

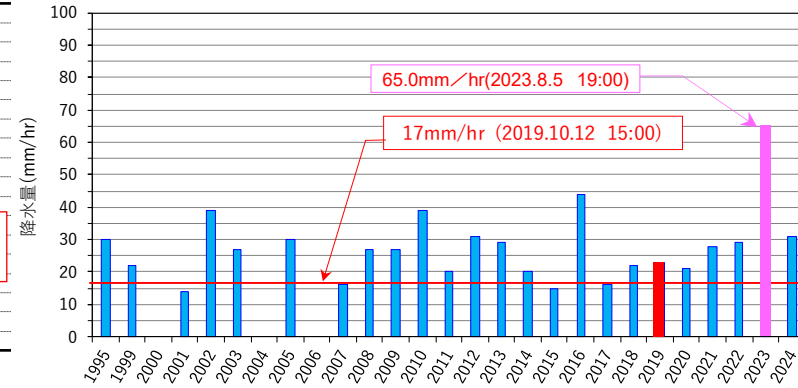


図2 団地建設以降の年最大日降水量

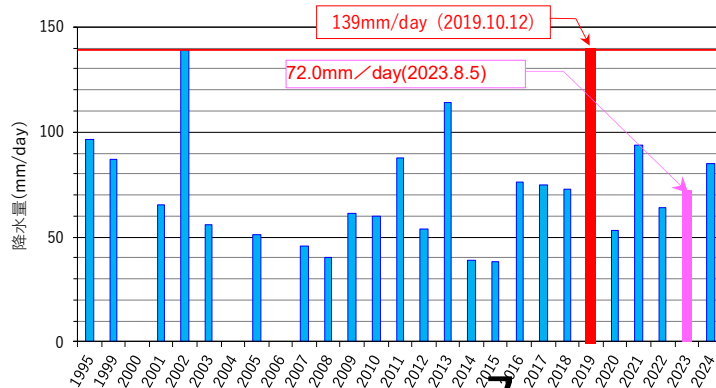
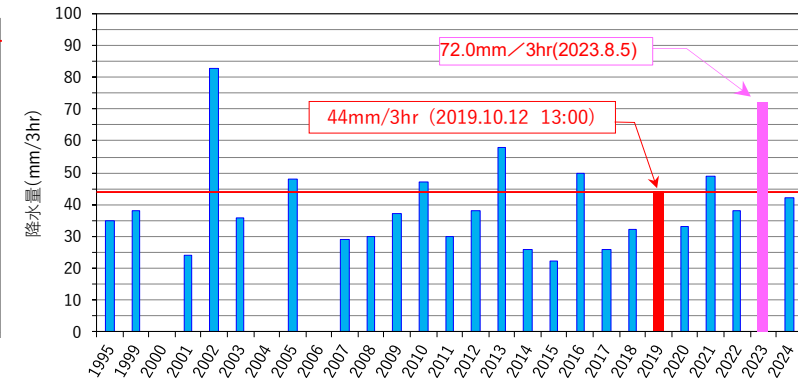


図4 団地建設以降の年最大3時間降水量



① 令和元年10月洪水による浸水要因の分析

八幡代団地周辺の降雨状況と千曲川水位との関係

- 代団地分譲時期～現在までの八王子雨量観測所の年最大時間雨量、年最大3時間雨量と同時刻の千曲川の水位（杭瀬下水位観測所）を確認したところ、令和元年10月の千曲川水位は突出していましたが、令和元年10月の最大時間雨量、最大3時間雨量は、突出した降雨量ではありませんでした。
- また、令和元年10月洪水時、八王子雨量観測所の雨量と杭瀬下水位観測所の水位を確認したところ、降雨のピークと水位のピークに時間差（約7時間）がありました。

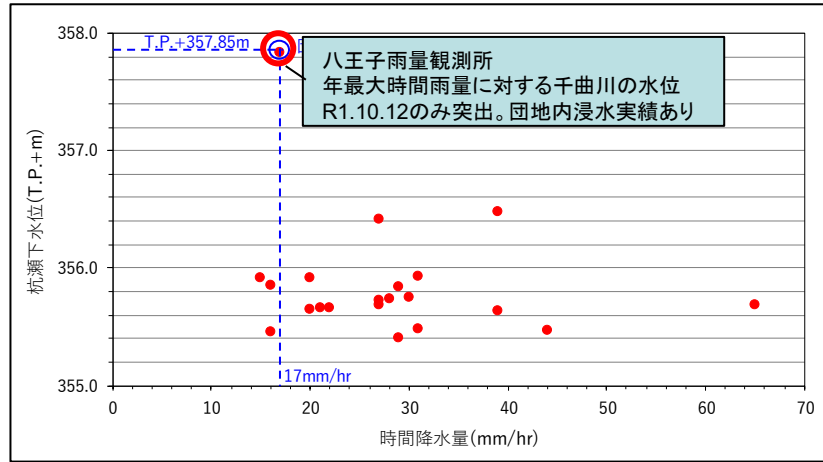


図 5 年間最大時間降水量と杭瀬下水位の関係

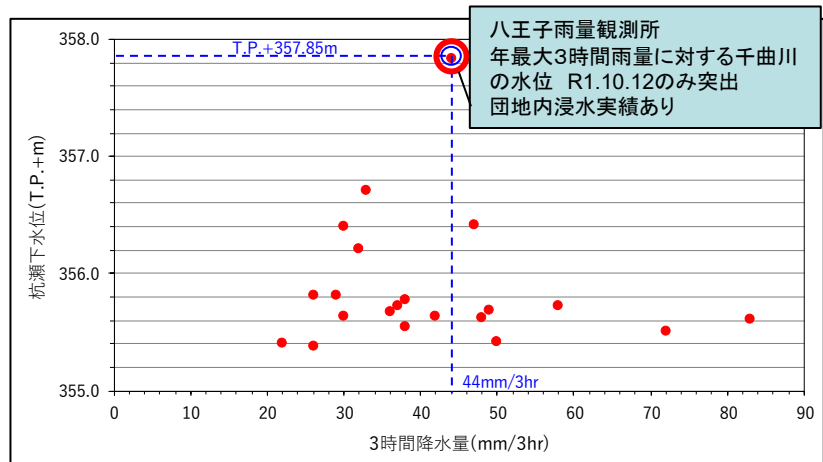


図 6 年最大3時間降水量と杭瀬下水位の関係

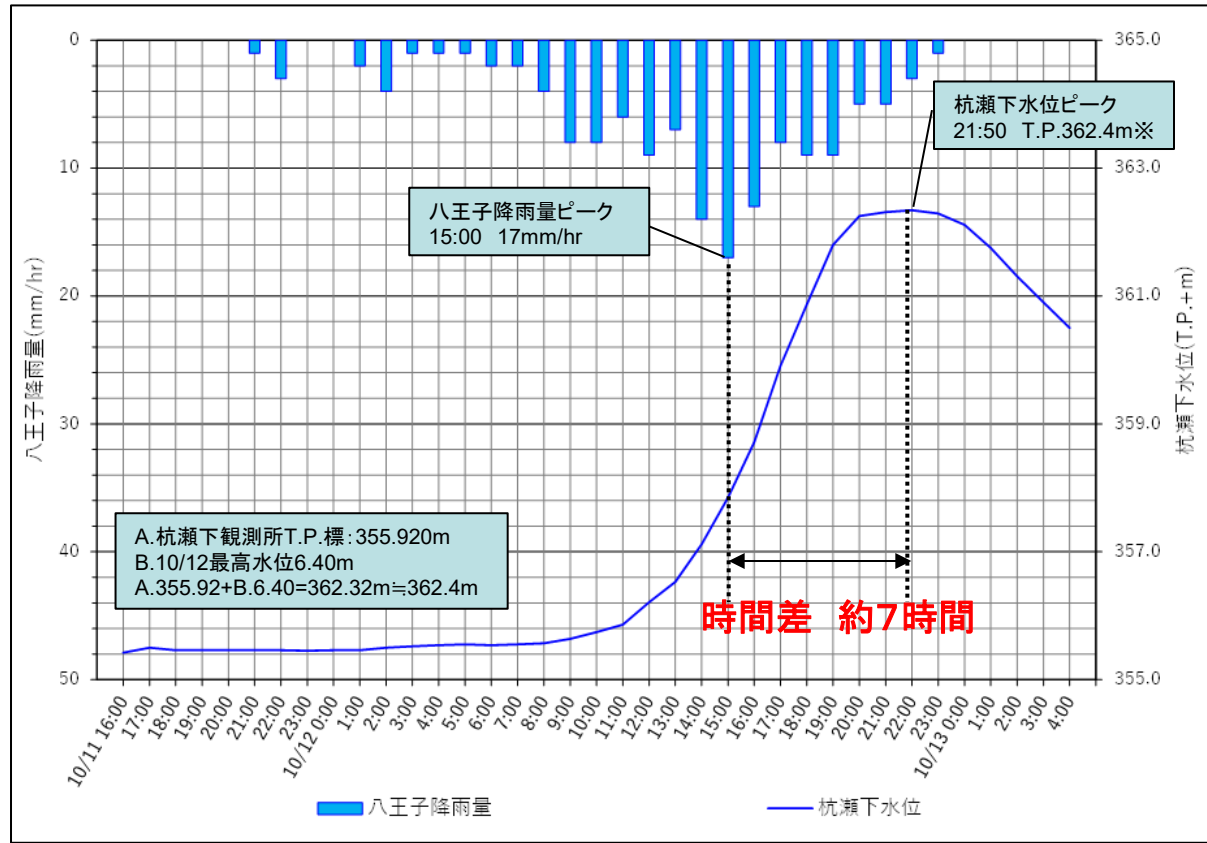


図 7 令和元年東日本台風の時間降雨量（八王子雨量観測所）

①令和元年10月洪水による浸水要因の分析

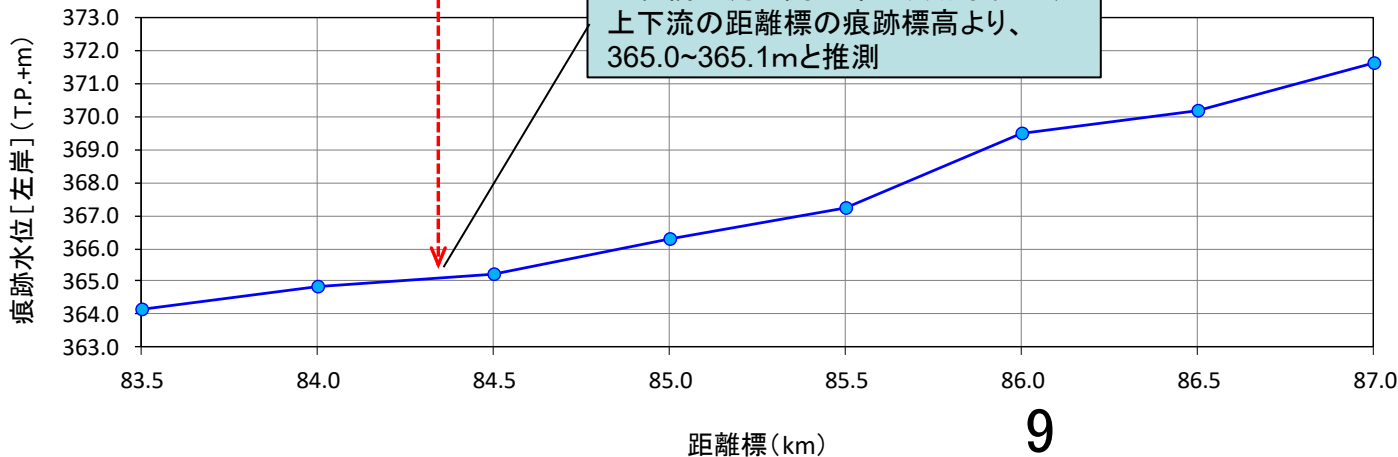
千曲川の洪水痕跡水位（平和橋下流付近）

- 千曲川河川事務所では、令和元年10月洪水直後に、洪水の最高水位がどこまで上昇したかについて、現地で確認するため、河川管理上設定している距離標（約500m毎）において、洪水直後の令和元年10～12月に現地で標高値を計測しました。
- その結果、平和橋下流側左岸（距離標84.0k）と同上流側左岸（距離標84.5k）で下記の標高値を観測しました。



霞堤開口部

平和橋下流の開口部の痕跡水位は、上下流の距離標の痕跡標高より、365.0~365.1mと推測



痕跡調査時の写真 84.0k



令和元年10月14日撮影(左岸)

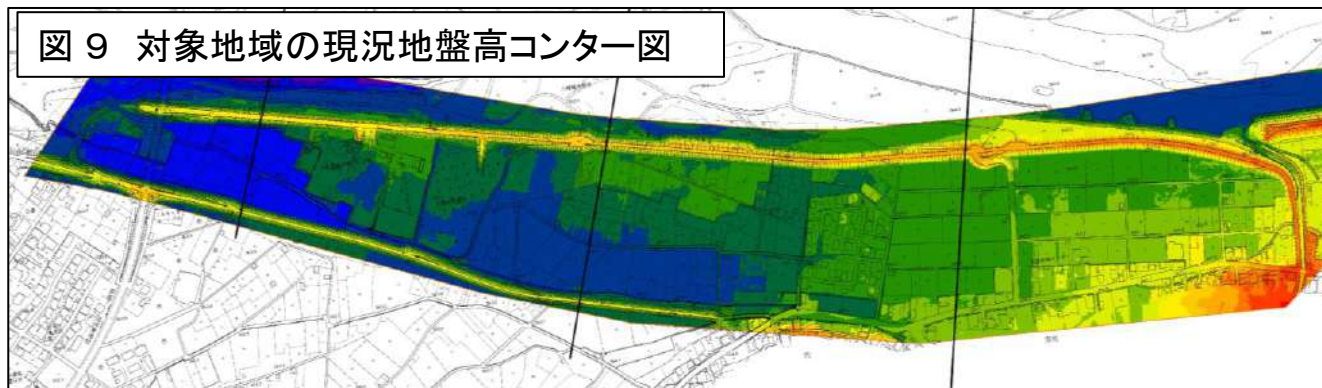
痕跡調査時の写真 84.5k



令和元年10月14日撮影(左岸)



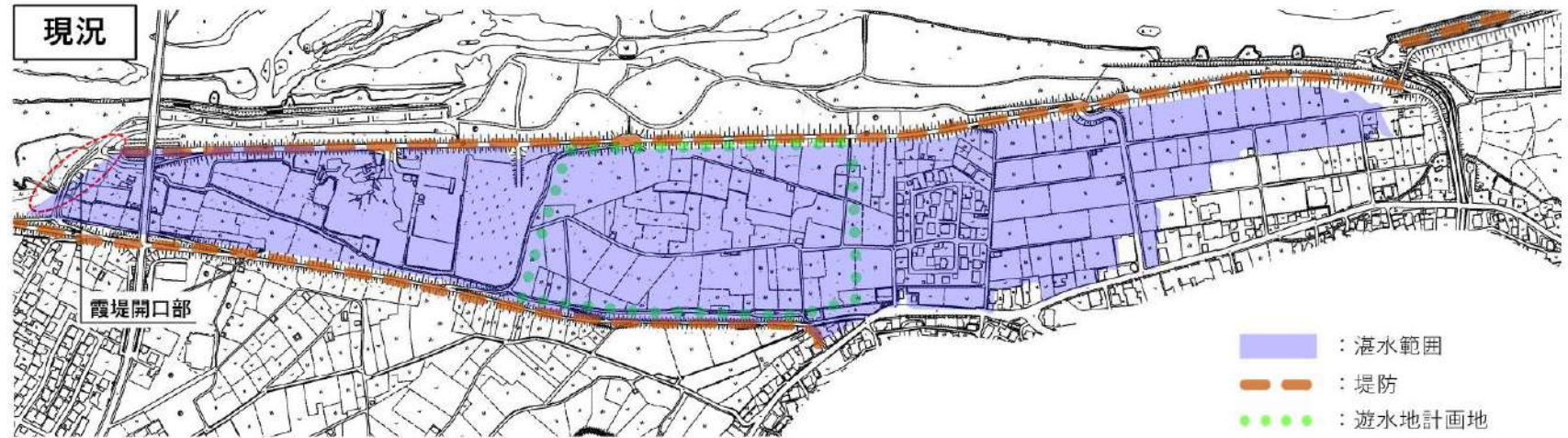
標高(m)	色	標高(m)	色
358.000	359.000	366.000	367.000
359.000	360.000	367.000	368.000
360.000	361.000	368.000	369.000
361.000	362.000	369.000	370.000
362.000	363.000	370.000	371.000
363.000	364.000	371.000	372.000
364.000	365.000	372.000	373.000
365.000	366.000		



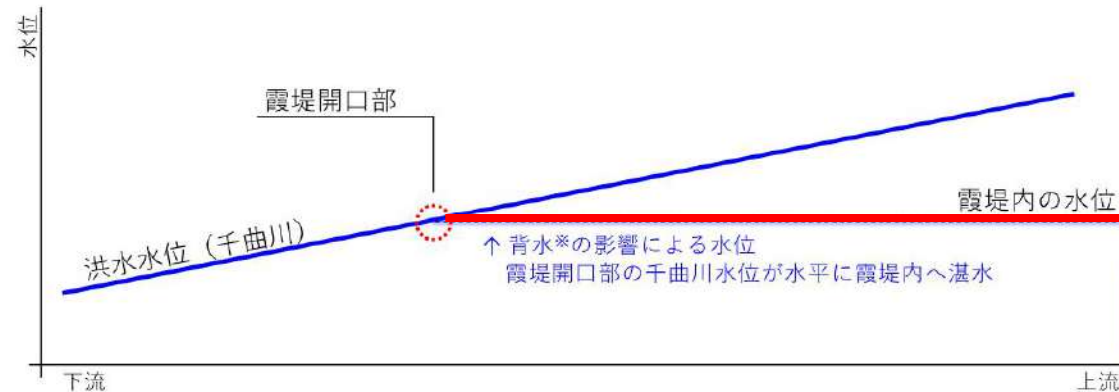
R5.7.7地元説明会の配布資料に、一部赤字加筆

平和橋遊水地 内水対策（現在の状況）

- ・現状では、令和元年東日本台風と同規模の洪水が発生した場合、千曲川からの背水の影響が上流住宅地まで及ぶ。（霞堤開口部の千曲川の水位が水平に霞堤内へ湛水する。）



水位縦断図（イメージ）



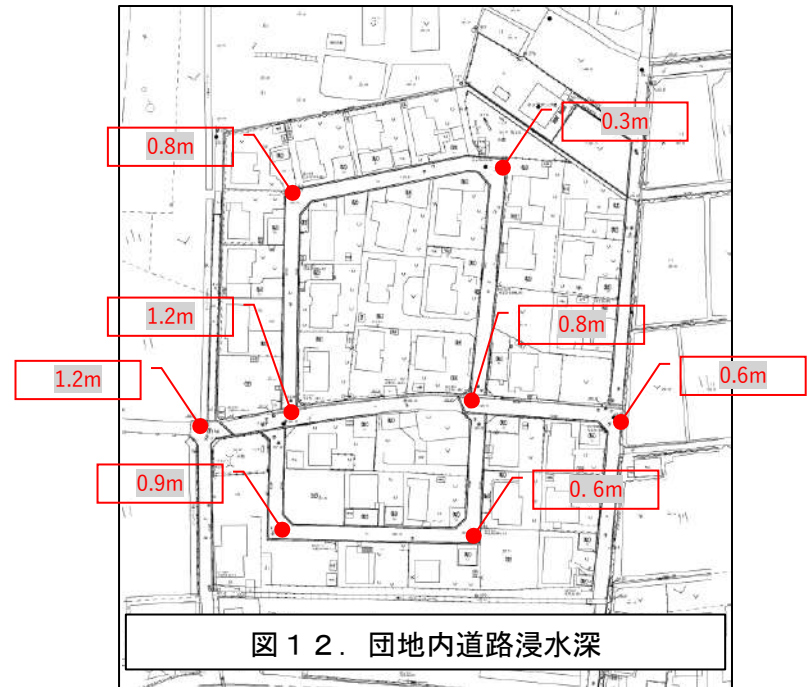
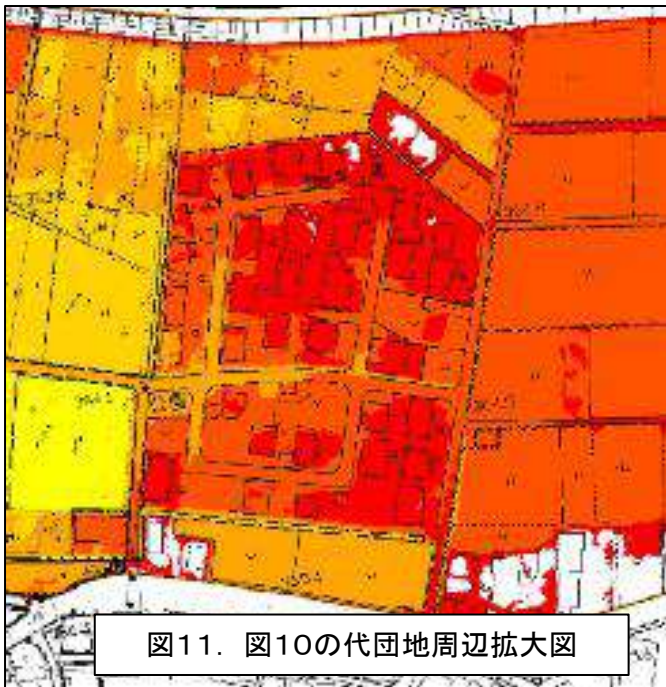
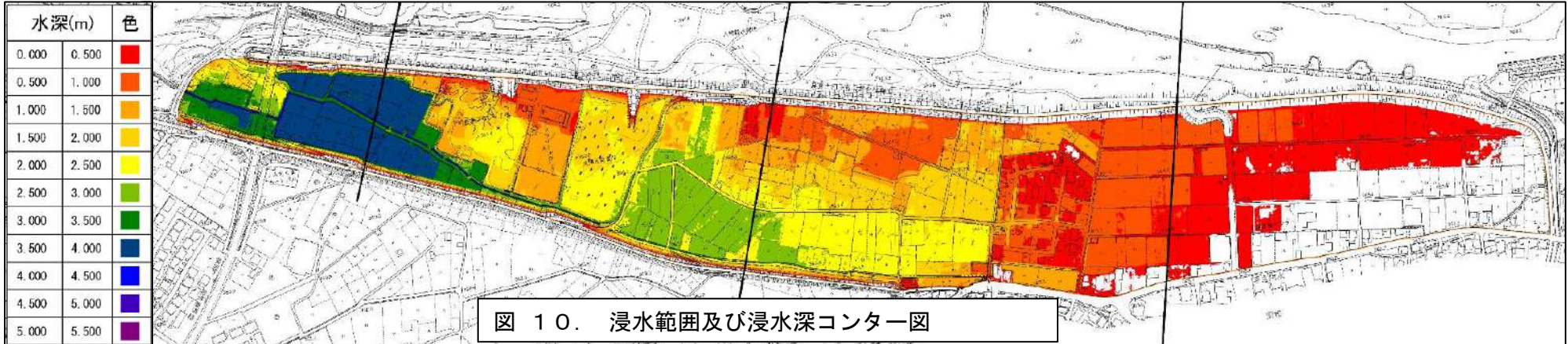
令和元年10月の洪水痕跡
標高 約365.1m

※背水とは
下流の水位変化の影響が上流まで及ぶこと。

①令和元年10月洪水による浸水要因の分析

平和橋下流の開口部より上流側の浸水状況

■ 平和橋下流の開口部より上流で令和元年10月洪水時の痕跡である標高値約365.1mをもとに、浸水深を推定した結果、下記のとおりとなりました。



② 令和元年東日本台風の洪水による八幡代団地浸水への対応の方向性

- 令和元年10月の八幡代団地の浸水要因は、外水（千曲川の洪水）によるものが大きいと推測されます。
- これを踏まえ、外水（千曲川の洪水）による浸水被害の防止に向けた対策の検討が必要です。

② 令和元年東日本台風の洪水による 八幡代団地浸水への対応の方向性

②－1 「住宅地周り壁立て」案の再検証

②－2 外水（千曲川の洪水）による浸水被害防止に向けた対策案の検討

②-1 「住宅地周り壁立て」案の再検証

- これまで、八幡代団地の皆様方に「住宅地周り壁立て」案をお示ししてまいりましたが、この案の場合、千曲川とつながる開口部が残るため、八幡代団地の周辺地区における外水による浸水被害を解消することができません。

R5.7.7地元説明会の配布資料より

浸水対策(住宅地周り壁立て)

- 霞堤控堤と遊水地周囲堤の間に離隔を確保し、本川と支川(若宮用水)の連続性を確保したまま、遊水地を整備。(霞堤として有していた内水排除の機能を維持。)
- 住宅地への浸水を解消するため、住宅地の周りに盛土・壁立てを行う。



りくこう
陸閘の例



○メリット

- ・代団地への千曲川からの背水による影響を解消。(影響解消は「代団地」のみ。)
- ・ポンプ規模を小さく設定できる。(排水対象は「代団地」のみ。)

○デメリット

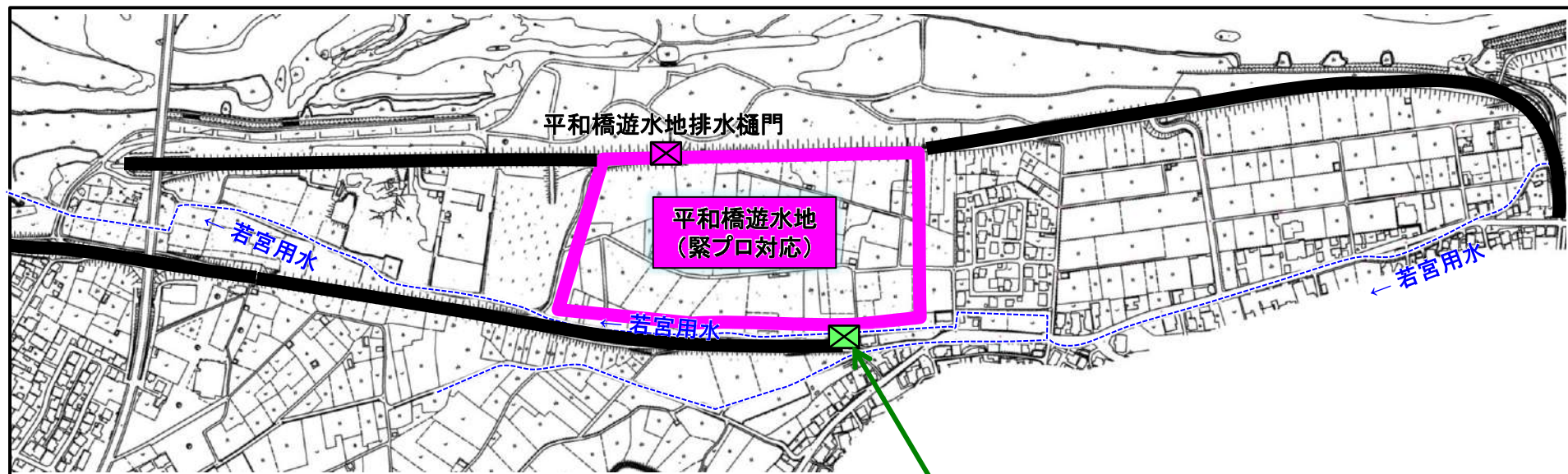
- ・代団地以外の低平地では、千曲川からの背水による影響が解消されない。



「住宅地周り壁立て」案では、令和元年洪水の外水による浸水被害を解消できない

②-2 外水（千曲川の洪水）による浸水被害防止に向けた対策案の検討

- 八幡代団地並びにその周辺地区に外水（千曲川の洪水）による浸水被害が生じないように、八幡代団地直下流付近に、千曲川の洪水が逆流することを防止するための樋門を新設する方向で、国と市が連携して、詳細な検討を実施します。



千曲川の洪水が逆流することを
防止するための
樋門の新設

※上記内容については、令和8年5月時点の情報であり、
今後の詳細な検討や関係機関等協議により変更が生じる場合があります。

八幡代団地周辺の浸水対策について

～近年（令和5年8月等）の集中豪雨時～

- 近年（令和5年8月19日等）の集中豪雨への対応として、千曲市では、流れが集中する若宮用水への対応として下記の検討、対策を実施してまいります。

【検討・対策実施の流れ】

【降雨量に対する現況水路の評価】

○想定する降雨量に対して、現在の若宮用水の排水処理能力が適正かどうかについて確認。



【水路断面等の検討】

○上記の確認の結果、処理能力が不足する場合、必要な水路断面の検討、若宮用水下流側（代団地周辺）への流入量を減らすことが可能かどうかについて検討。



【計画の決定、対策の実施】

○上記の検討を踏まえた計画を決定し、対策を実施。

【その他の対策(横断管の改修)】

○県道を横断している函渠を大きくし、越水を防ぐ。



— 横断管



近年（令和5年8月等）の
集中豪雨への対応
～若宮用水への対応の方向性～

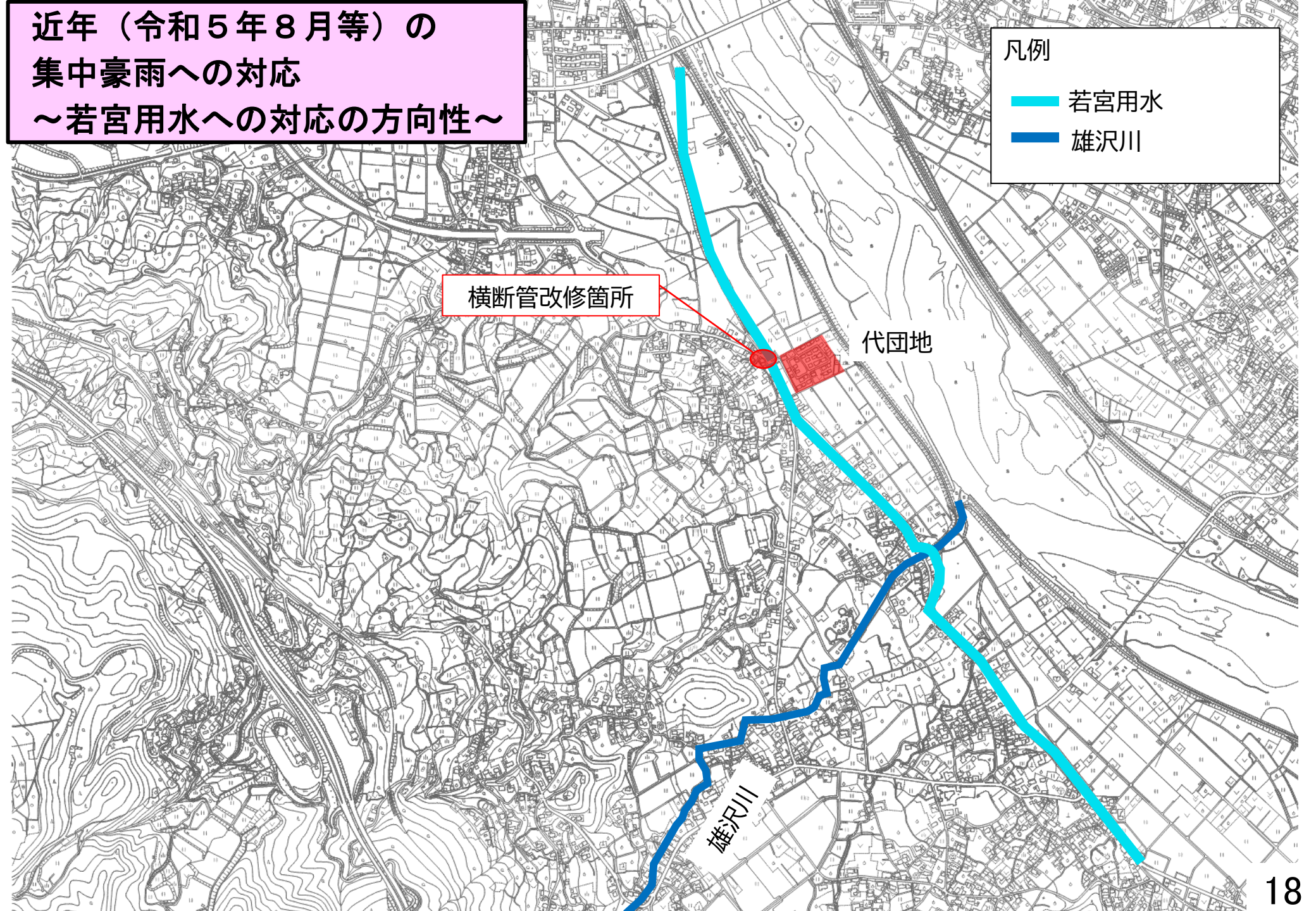
凡例

- 若宮用水
- 雄沢川

横断管改修箇所

代団地

雄沢川



(ご参考) 「外水氾濫」、「内水氾濫」とは？

「外水氾濫」とは？

一般に「外水氾濫」とは、大雨によって河川の水位が高くなった時、堤防を越えたり、堤防が決壊したり、あるいは堤防のないところから河川の水があふれ、河川の外（住宅側）に流れ出し、氾濫・浸水が発生する現象をいいます。

- 原因 : 河川の水位上昇、堤防の越水・決壊、高潮、津波など
- 水の来る方向 : 河川や海など地域の外から
- 特徴 : 広範囲で深い浸水になりやすい

「内水氾濫」とは？

一般に「内水氾濫」とは、雨水排水路等の排水施設的能力を超える雨が降った時や、雨水の排水先の河川の水位が高くなった時等に、雨水が排水できなくなり、氾濫・浸水が発生する現象をいいます。

- 原因 : 短時間の大雨で水路が処理しきれないことなど
- 水の来る方向 : 雨がその場に降り、地域の中でたまる
- 特徴 : 都市部等で起こりやすく、低い場所に集中
例：水路や柵から水が溢れだす、地下や道路が冠水するなど